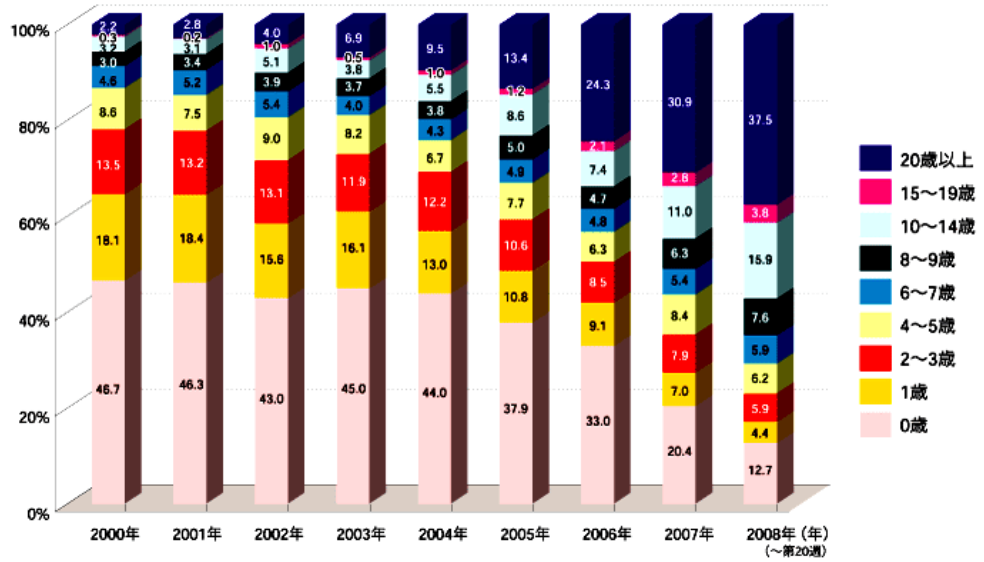
百日せき（長引くせきに注意）

長い間，せきが続く症状に悩まされていませんか？「せきだけだから…」と放置すると意外な感染症の可能性があります。

表題にある百日せきは，主に小児がかかる感染症です。百日せきは，感染してから約１週間の潜伏期のあと，かぜと同じような症状が現れます。しばらくすると，せきの回数が徐々に増え，連続する短い激しいせきと，息を吸うときに笛のような音がでる百日せき特有の症状が現れます。また乳児の場合，せきが出ず息を止めたような状態となることがあります。このような特有の症状は，２～３週間で鎮まり，その後も時々せきが出ますが，おおよそ２～３箇月で治ります。



図．百日せきの報告例　年別・年齢別割合（2000 年から 2008 年第 20 週まで）

国立感染症研究所　感染症情報センターホームページより

日本では，百日せきワクチンの接種率の上昇とともに感染者が減少してきましたが，近年，成人の感染報告数が増加し（図参照），大学や職場での集団感染も起こっています。成人が百日せきに感染した場合，百日せき特有の症状が現れることは少なく，症状も軽いため，見過ごされている場合があります。しかし，**せきには百日せき菌が含まれ，特にワクチンを接種していない乳幼児への感染源とならないよう注意が必要です。**

乳幼児では，百日せきの予防にワクチンが有効です。３種混合ＤＰＴ（ジフテリア・百日せき・破傷風）ワクチンを生まれてから３箇月以降に接種します。

せきが続く症状の原因は，百日せき菌だけとは限りません。ほかにも結核菌，マイコプラズマ，クラミジアなどが原因となる場合があります。

成人では，症状が軽いといって安心せず，**感染を広げないため**にも受診をお勧めします。